

2015年の難民危機の 亡霊に怯える欧州



木村 正人
在英国際ジャーナリスト

100万人を超える難民が大挙して押し寄せた2015年難民危機の亡霊に欧州が怯えている。米軍の撤退でアフガニスタンの首都カブールは瞬く間に陥落した。イスラム原理主義武装勢力タリバンはアフガン国軍が捨てた米製自動小銃M16を携え、サンダル履きで20年ぶりに首都に舞い戻った。報復と内戦を恐れて「最大500万人の難民」(ドイツのホルスト・ゼーホーファー内相)の発生が懸念されているからだ。

特別機にしがみついて上空で 振り落とされた人も

日本の終戦記念日の8月15日、30万人いるはずのアフガン治安部隊は雲散霧消した。アシュラフ・ガニ大統領は国民を見捨てて国外に逃げ、米国の傀儡(かいらい)、アフガン政府は世界が注視するなか、呆気なく崩壊した。欧米政府や援助機関のため働いた現地職員や通訳、人権活動家を救出する特別機に乗ろうと数千人の群衆がカブールの空港に押し寄せた。米軍機にしがみついたまま離陸したものの上空で振り落とされた2人を含む計7人が死亡した。

米中枢同時テロから20年間、米国に連れ添ってきた英国からは兵士計15万人が従軍し、死者457人、重傷者600人以上の犠牲を出した。2017年以降だけでも、英兵士と退役軍人計約250人が「戦争トラウマ」で自殺したと推定されている。同時テロに北大西洋条約機構(NATO)初の集団的自衛権が発動されたためとは言え、泥沼化した戦争に従軍した兵士たちの思いは複雑だ。

二度、爆弾処理チームの一員としてアフガンに従軍し、即席爆発装置(IED)で両足を失った元英兵士ジャック・カミングズ氏はその心境をこうツイートした。「あれは本当に意味のあることだったのか。おそらくそうではないだろう。私はこんな無意味なことのために両足を失ったのか。私の戦友たちは無駄死だったのか。怒り、裏切られた思い、悲しさといった多くの感情が私の頭の

中を駆け巡っている」。IEDの恐怖に耐えたあの日々は何だったのか――。

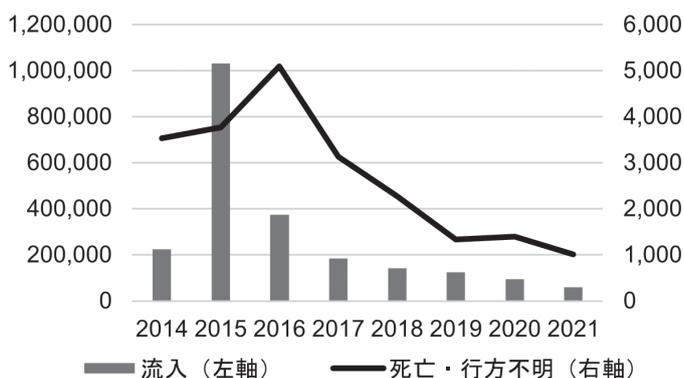
ボリス・ジョンソン英首相は下院で「20年前、アフガンでは女の子が学校に行くことなどほとんどなく、女性が統治者の地位に就くことも禁じられていた。しかし今では、今年だけで360万人の女の子が学校に通っている。アフガン議会の4分の1以上が女性だ」と駐留の成果を強調した。そして「われわれの活動を支援してくれたアフガンの人々も一緒に避難させる」と、今後数年間で2万人のアフガン難民を受け入れると誓った。

島国の英国と違ってアフガンとは陸続きの欧州連合(EU)加盟国は一様に慎重な姿勢を見せた。欧州難民危機でアンゲラ・メルケル首相が「門戸開放」を表明したドイツには100万人を超える難民が押し寄せ、極右政党「ドイツのための選択肢(AfD)」が難民排斥を唱えて2年後の総選挙で議席をゼロから94に増やした。戦後、極右政党がドイツ連邦議会で議席を得るのは初めての出来事だった。

「2015年を繰り返してはならない」と 警戒する欧州

ドイツでは今年9月、総選挙が行われ、メルケル首相は政治の表舞台から退く。ゼーホーファー内相は有

地中海を渡って欧州に流入する難民(人)



出所: UNHCR

権者のフラッシュバックを懸念して「30万から500万人の難民申請が見込まれる」と警戒警報を鳴らした。ドイツの次期首相候補アルミン・ラッシュト氏を推すキリスト教民主同盟 (CDU) 幹部はAfDに“反難民票”が流れるのを防ぐため「われわれは2015年を繰り返してはならない」と釘を刺した。

来年春に大統領選を控えるフランスのエマニュエル・マクロン大統領も人権活動家やジャーナリストを受け入れる必要性は認めたものの、「欧州は現在の状況がもたらす結果に単独で対処できない。大規模な不法移民の流れを予測して、それに備えなければならない」と表情を引き締めた。マクロン大統領は世論調査で反難民の極右政党、国民連合のマリーヌ・ルペン党首と一進一退の攻防を繰り返しており、攻撃材料を与えるわけにはいかない。

オーストリアのカール・ネハンマー内相は「アフガンの人々がオーストリアに来る理由はない」と言い放ち、強制送還の代替策として難民申請が認められなかった移民の「強制送還センター」をアフガンの周辺国に設置することを提案した。アフガン難民の強制送還を主張しているEU加盟国はオーストリアのほかに2カ国もある。難民問題は欧州では慎重なバランス感覚が求められる。

欧州難民危機の通過ルートになったギリシャは「難民の入り口に二度とならない」と宣言して、ハイテクの自動監視システムを備えたトルコ国境フェンスを12.5キロメートルから40キロメートルに延伸する工事を完了した。欧州対外国境管理協力機関 (FRONTEX) も不法移民を抑止し、強制送還する能力を強化している。

難民に寛大だったイランやトルコでも受け入れは厳しい

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) によると、難民の出身国はシリアが最も多く670万人、ベネズエラが400万人、3番目がアフガンで260万人、続いて南スーダン220万人、ミャンマー110万人となっている。一方、受け入れ国はトルコが最も多く370万人、コンビア170万人、パキスタン、ウガンダ各140万人、ドイツ120万人。シリアとアフガンの難民が多いのは明らかに米国の外交・安全保障政策の失策だ。

アフガンの避難民はすでに国内で350万人近くに達している。しかし「2015年」と違ってアフガン難民が欧州にたどり着くのは至難の業かもしれない。人道支援の非政府プロジェクトACAPSによると、イランに

はアフガンの難民約78万人と不法移民210万～250万人がいる。パキスタンにはアフガンの難民約139万人と不法移民約100万人が逃れている。

米国の制裁で経済が悪化したイランでは昨年11月、アフガンの不法移民には最高25年の懲役という厳罰を科す法改正を提案した。大量の難民を受け入れてきたトルコでもイラン国境500キロメートルの半分に壁を築くことを目指し、国境警備を強化している。レジェップ・タイップ・エルドアン大統領は異常気象による山火事、洪水、経済悪化で支持率が低下しており、アフガン難民に甘い顔ができる状況ではない。

アフガン難民はイランやトルコにさえ移動するのが難しくなっているのだ。さらにアフガニスタンやイラン、パキスタンのコロナワクチン接種はそれほど進んでいない。アフガン難民のエクソダス (大量脱出) が起き、感染爆発が広がったら、移民や難民の排斥、極右の台頭に拍車をかける恐れがある。

米国は旧ソ連による1979年のアフガン侵攻から数えると20年ではなく40年以上もアフガンに介入してきた。同時テロを実行した国際テロ組織アルカイダも、首領のウサマ・ビンラディン (故人) を匿ったタリバンも米国のアフガン介入が産み落とした鬼子だった。無様な撤退劇だが、そろそろ潮時というジョー・バイデン米大統領の決断は正しい。1975年のサイゴン陥落から15年後、米国は冷戦に勝利した。

バイデン大統領は何度も「アフガンに1兆ドル (約109兆円) を費やした」と強調したが、米ミシガン大学のファン・コール教授 (歴史学) はブログで「大半はあの国に落とした爆弾の代金だ。それに比べアフガン建設のため使われたお金はわずかで、その多くは汚職で失われた」米国が立ち上げた中央政府の腐敗は銀河系規模だった。カブールの空港から米ドルを満載した貨物機が定期的にドバイに向け飛び立った」と指摘した。

米国にはアフガンに投じていた軍や情報機関、資金のアセットをインド太平洋に振り向けたいという思惑がある。それは日本にとっても大きなプラスだ。しかし自由と民主主義の夢を見せられたにもかかわらず、タリバンから逃れる道を壁に閉ざされたアフガンの人々はどうなるのか。米国だけでなく、人権を掲げる欧州や日本も難民をアフガン周辺国に押し付けず、自らが受け入れる人道的な貢献が求められている。

